

# 第1章 苫小牧市の概要

## 第1節 地勢・気象

### 1 位置及び面積

苫小牧市は、北海道の南西部に位置し太平洋に面しています。支笏洞爺国立公園の樽前山のふもとに開かれ、周囲には支笏湖などの湖沼や清流のほか、広大な森林などがあり自然環境に恵まれています。東にはウトナイ湖を有する勇払原野が広がり、自然と身近に接することができるまちです。

また、特定重要港湾苫小牧港を有し、鉄道幹線や国道、高速自動車道などの陸路交通のアクセスポイントであり、新千歳空港に隣接した北海道の海と空と陸の交通の要に位置しています。



#### 北海道陸路交通の拠点都市

鉄 道	J R室蘭本線、千歳線、 日高線への分岐点
国 道	36号 (札幌、室蘭方面へ) 234号 (岩見沢方面へ) 235号 (日高方面へ) 276号 (ニセコ方面へ)
自動車道	道央自動車道へ東西2か所 のインターチェンジで直結 高規格道路 (日高自動車道) の起点

位 置	東 経	141° 36' 34"
	北 緯	42° 37' 53"
広 ぼ う	東 西	39.9 km
	南 北	23.6 km
	周 囲	124.5 km
標 高 (海 抜)	6.651 m	
面 積	561.57 km <sup>2</sup>	

資料：苫小牧市統計書

## 2 気象

### ■月別概況(平成28年)

	平均気温 (°C)	最高平均 気温 (°C)	最低平均 気温 (°C)	平均湿度 (%)	平均海面 気圧 (hPa)	降水総量 (mm)	平均風速 (m/s)	日照時間 (h)	降雪量 (cm)
1月	-3.6	0.3	-7.5	66	1014.1	21.0	3.1	141.9	40
2月	-2.4	1.8	-7.2	72	1016.3	54.5	3.5	161.1	56
3月	1.2	5.6	-3.5	76	1017.3	43.0	3.1	187.1	19
4月	6.3	10.7	2.5	74	1012.7	72.0	3.7	175.5	—
5月	11.9	16.6	8.1	78	1012.7	97.0	3.1	213.0	—
6月	13.9	16.9	11.4	91	1010.0	294.5	3.2	108.8	—
7月	18.0	20.6	16.1	92	1011.0	228.0	3.2	100.8	—
8月	22.1	25.2	19.3	91	1007.4	350.5	2.9	173.8	—
9月	18.4	22.2	14.8	87	1015.2	126.5	3.0	124.7	—
10月	10.1	14.9	4.9	70	1015.6	79.5	3.1	183.8	—
11月	2.2	6.3	-2.1	73	1017.8	92.0	3.0	111.7	8
12月	-1.6	2.6	-6.4	77	1015.3	95.0	3.1	121.4	65

※ 降雪量における「—」は「降雪なし」または「1 cm未満の降雪」を示す。資料：室蘭地方気象台

### ■気象極値

区 分	極 値
最高気温	35.5°C(平成19年8月15日)
最低気温	-21.3°C(昭和20年1月18日)
月最大降水量	697.0 mm(昭和56年8月)
月最小降水量	7.0 mm(平成15年2月)
日最大降水量	447.9 mm(昭和25年8月1日)
日最大降雪量	47 cm(昭和43年2月20日)
最深積雪	77 cm(昭和53年3月11日)
最大風速	31.8m/s 風向・南(昭和29年9月26日)
最大瞬間風速	38.6m/s 風向・南東(昭和56年8月23日)
最低海面気圧	965.0hPa(昭和45年1月31日)

資料：室蘭地方気象台

※ 極値は、気象官署観測開始からの値を使用する。

※ 最深積雪は、平成16年10月1日に特別地域気象観測所となったため統計切断となり参考値。

## 第2節 歴史・沿革

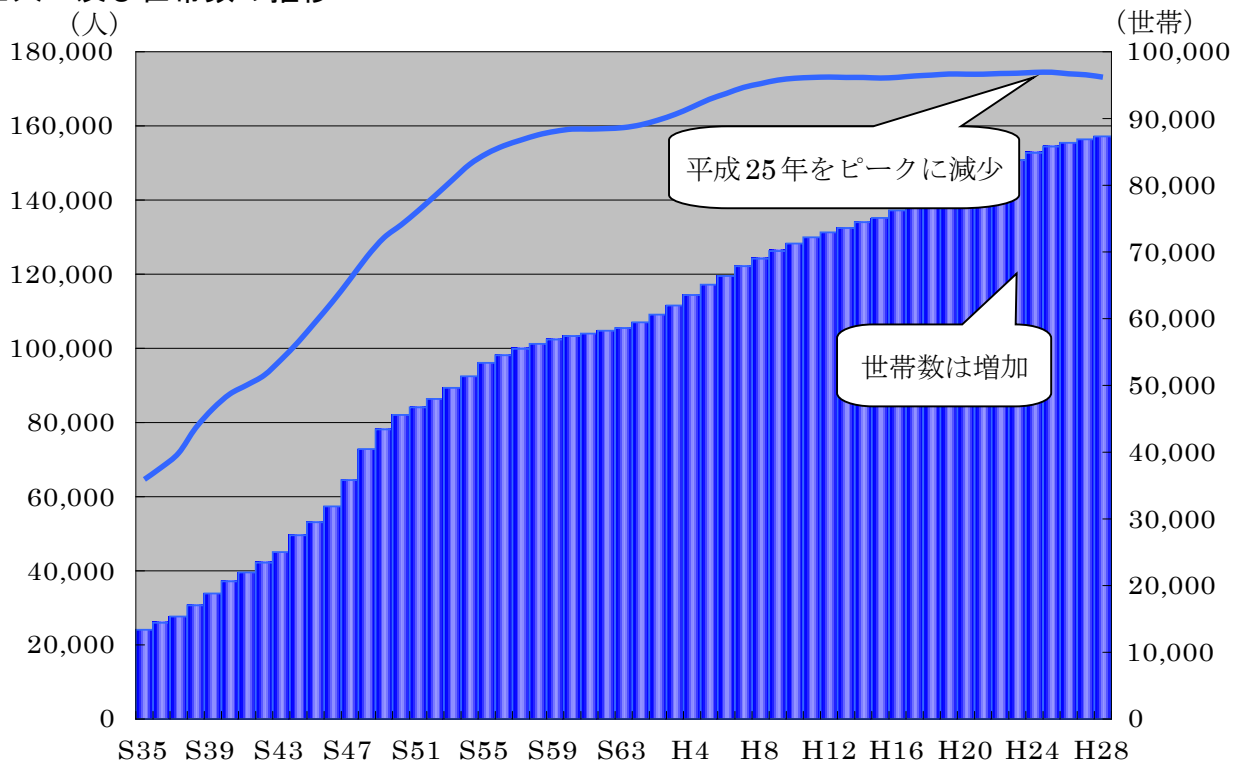
北海道には古くからアイヌ民族が暮らしていましたが、苫小牧地方ではすでに15世紀の半ば頃、道南に館を構えた小領主によって、アイヌ民族と和人の交易が行われていました。寛政12(1800)年になると、現在の東京都八王子市から八王子千人同心が勇払に移住し苫小牧の開拓が始まります。そして、明治時代になると製紙工場の操業開始を契機に工業都市として歩みははじめます。その後、臨海部に工場が並ぶにつれて街が発展し、戦後には国家レベルの事業として内陸掘込港である苫小牧港(西港)が築かれました。

高度経済成長期に入ると東部に大規模工業基地が建設され、昭和59年には自動車部品製造工場が操業を開始しました。現在でも、製紙業では国内トップの生産高を誇っており、製造品出荷額では人口で10倍以上を有する札幌市を上回るなど、北日本有数の総合工業都市として発展しています。

## 第3節 人口

昭和33年の約5万8千人から経済成長期に約16万人台にまで増加し、平成25年の17万4千人をピークに人口減少傾向にあります。平成28年12月末現在の人口は173,135人(世帯数87,334世帯)となり、前年末から659人の減(457世帯の増)、対前年増減率はマイナス0.38%(0.53%)で、3年連続で減少しています。

■人口及び世帯数の推移



資料：苫小牧市統計書

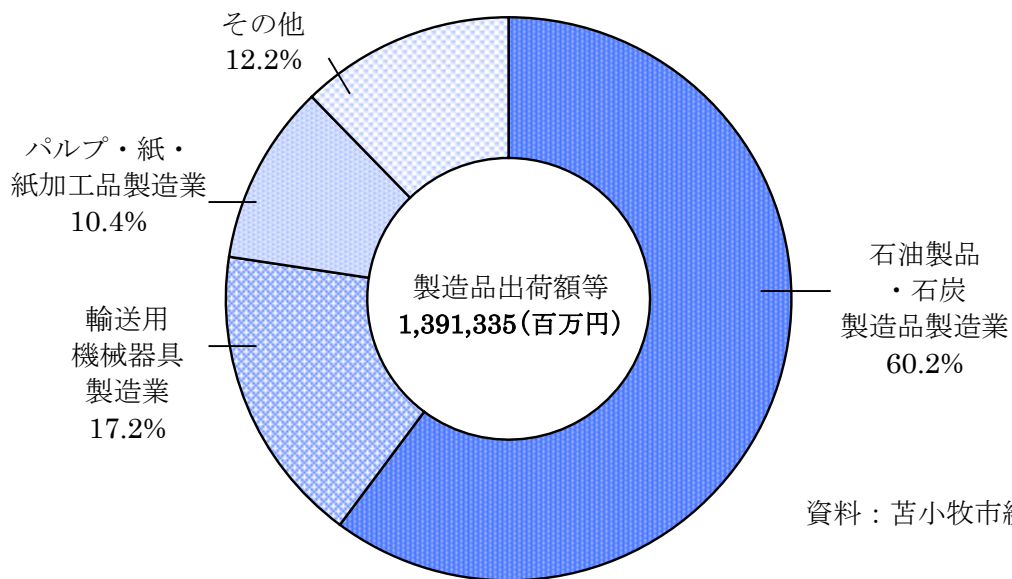
(注) 平成25年以降の人口は、断りのない限り住民基本台帳法の改正により外国人住民を含む。

## 第4節 産 業

苫小牧市は道内有数の工業都市であり、石油製品・石炭製造品製造業、輸送用機械器具製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業が特に盛んで、これら3つで製造品出荷額全体の9割近くを占めています。

製造業の事業所数と製造品出荷額の推移を見ると、事業所の大型化傾向も見られます。

### ■製造品出荷額等産業別構成割合(平成26年)



### ■製造品出荷額等及び事業所数の推移

